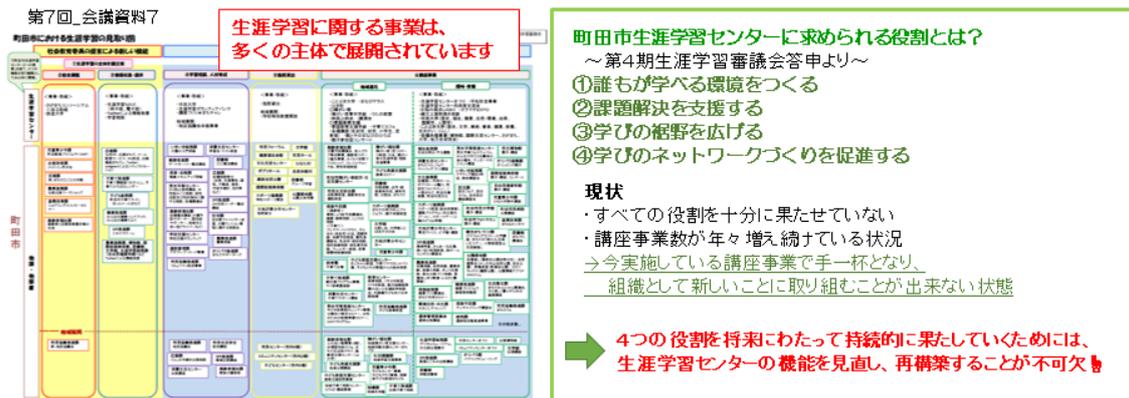


## 事前アンケートのご意見について

「機能と事業の整理について」に関するアンケート項目について、頂いたご意見を紹介させていただきます。

### 問1：今後、生涯学習センターとして重点を置くべき機能は何だと思いますか？ (参考データ)



#### 市民意見（市政モニターより抜粋）

- ・限られた人達しか利用していないように見える。・高齢者だけでなく幅広い年齢層の参加を促すことができると思います。
- ・高齢者を対象とするサービスも残しつつ、既存のものを峻別した上で、より幅広い世代に訴求するサービスを検討しなくては良い取り組みも先細るだけかと思えます。

### 回答：

- ・講座事業が増えているのは、今までの答申に逆らっている状況であり、答申を踏まれば減っていく方向だと思う。専門的な講座においては各部署に任せていくべきであり、増えるべき講座は生涯学習を促進するための生涯学習センターでなければできない講座に絞り込むべきである。その上で、生涯学習に関連する各部署の講座の情報の一元化を促進するのがセンターの役目だと思う。
- ・①誰かが学べる環境をつくる：行政全体の課題であり、生涯学習センターが全て担えるものではない。②課題解決を支援する：地区協議会で取り上げるべき内容である。③学びの裾野を広げる：社会教育・生涯学習全体の課題であり、各担当が常に意識する課題である。④学びのネットワークづくりを促進する：これが生涯学習センターに求められる最重要な機能だと考える。ということで、④を中核に検討すべきである。
- ・市民のニーズをすべて汲み上げることはできないので、町田市の博物館や遺跡などのリソースを絡ませた企画を考えて、町田市のイメージアップを市民以外の方にも、すなわち対外的にもアピールしていくなどの観点から、内容を絞り込むことも考えてよいのではないかと思います
- ・大切なことは、生涯学習センターが公民館事業の実践をする施設であるという事で、教育基本法や社会教育法の理念に基づいている公の施設だという事だと思います。誰のためという事で言えばすべての人が対象になります。ですから、その後の何を重点にするかはその時々ニーズに合わせることも必要ですし、継承や蓄積が必要なことであれば継続していかなければならないと思います。生涯学習審議会に出席して

も、生涯学習センターについてどれだけ知っているかといわれれば、センター運協の方たちには遠く及びません。生涯学習審議会では、上記の4つの機能が機能しているか、という検証をするのなら理解できますが、この審議会で出た意見を答申として、あり方を策定するのは違和感を感じます。

## 問2：今後の講座事業や情報発信について、実施手法等に改善点はありますか？ (参考データ)



### 市民意見（市政モニターより抜粋）

- ・町田駅から好立地とあるが、常盤町在住の子育て世代には町田駅まで行くのは大変で利用しようと思わない。オンラインを活用して家でイベントや学習に参加できるようになったら嬉しい！！
- ・何をしているのかわからないというのが率直な感想です。HPのイベント情報を見ても、一目見てパッと分かるような記載でもないで、もう少し分かりやすい方がいいと感じました。
- ・申込み方法では、電話に限定するのではなく、ネットとか窓口とか何パターンがあったほうがいいです。

### 回答：

- ・生涯学習センターからの全庁における講座・セミナー等の一元化をはかることと、周辺団体における（社協・シルバー人材センター・さがまち・商工会議所他）の情報も掲載するサイトの再構築。町田市内の生涯学習情報センターとしての機能の充実。学びたいカテゴリーでの検索ができたり、チャットによる受講アドバイスやコーディネーター機能の追加など。また、講座の評価機能（いいね機能）などの工夫。
- ・HP 及び SNS 対応により、情報発信と交流を強化する。現在の喫緊の課題としては、ICT 活用力を高齢者のみならず、市民生活の「セーフティ・ネット」として、多くの市民に広く養えるよう工夫する必要があると考える。新しい「リカレント教育」としての提供が必要。オンラインによる双方向のやり取りが可能な講座の充実はぜひ図りたい。
- ・動画などのメディアを積極的に活用していくことは、効果があると思います。
- ・昨年度から、ウィズコロナで新しい実施手法を実践されてきていると思います。オンライン配信やリモート講座は実際に出かけなくても家でできることにより、小さい子を持つ方や、外出しにくい方にも良い方法だと思います。また、学生の学び方も変わっていますし、リモートで働く人も、オンラインは参加しやすい形態といえるのではないのでしょうか。講演会や講座をリモートで行ったり、録画配信などが増えると、それを見て、のちのち実際に行ってみようと思う方もいると思います。逆に、出前講座で近所で学べるのもうれしいことだと思います。小学生の学んでいる英語や、プログラミング、多様性など保護者が子供の時には習っていなかったことがあり、実際にどのように学んでいるのか、保護者としてどのようなサポートができるかなどは、学校を巻き込んだ、生涯学習の取組になるのではないのでしょうか。子どもがタブレットを家に持ってくるようになったときに、扱い方がわからない保護者もいらっしゃると思います。家にタブレットを持ってきても、家庭によっては用をなさないという話も聞きます。新しい課題を地域で解決することが必要だと思います。

問3：市民ニーズに応じて新しい学びを絶えず提供し続けるためには、生涯学習センターの体制やしくみをどのように工夫・改善したら良いと思いますか？

(参考データ)

生涯学習センター運営協議会報告書「市民大学構築に関する検討報告書」より

- ・講座実施の主力事業である「市民大学HATS」と「ことぶき大学」の差別化が難しくなっている。いずれも応募者の年齢が高く、地域社会や地域文化を担う次世代の人材を生み出しづらい。
- ・「プログラム会議」に講座づくりの指針が示されていないため、従来の枠組みを超えての新しいプログラム作りが難しい状態にある。

市民意見（市政モニターより抜粋）

- ・市民のニーズ（若年層、中年層、高齢層）を組み入れたプランと実施・運営をお願いします。

回答：

- ・「ことぶき大学」と「市民大学」の差別化が難しくなっているのなら、すでに役割は終えているのではないかとむしろ、若年層・中年層にシフトした講座づくりのために、大学生のグループや若い勤労者を運営協議会へ参加してもらうのがよいのではないかと古い頭ばかりではイノベーションを起こすことは難しい！若年層、中年層に絞った講座ニーズアンケートはとれないものだろうか？
- ・求める講座像を検討する必要がある。具体的要件としては、①新規加入者や各世代の方々に開かれていること、②単なる仲良しサロンだけにせず、常に変革を意識すること、③年度ごとに事業計画を公開し、新規事業や新規加入者数などの公開を行うこと④講師が会員から謝金を取る場合などは、会場使用費を市に収めること。
- ・講座に対する聴講者の評判などを元にニーズを汲み取り、それに即して講座の内容を検討するなど、PDCAサイクルを回していく必要があると思います。
- ・市民大学とことぶき大学は目的が違うという事で、それぞれ運営されてきたと思います。でも、だから一緒にできないという事もないように思います。一つ一つの講座の目的を明確にするなどの工夫で、ある程度は克服できそうにも思えます。受講者の年齢が高いことや、人材を生み出しづらいのは、地域で求められている人材や課題を具体的に把握できていないからではないでしょうか。地域の人材を考えるなら、地域の課題を把握することが手始めで、市民大学やことぶき大学を地域で開くことが必要ではないでしょうか。そこから、地域の課題や必要とされている、人材が浮かび上がるのではないのでしょうか。

問4：その他ご意見があればご自由にご記入ください。

回答：

- ・一つの講座ですべての年代層を呼び込むのは困難と思われるので、各講座のターゲットを絞り、若年層向けの講座には若い先生を起用するなどすることも、若い人を呼び込むのに効果があるのではないのでしょうか。
- ・緊急事態宣言などでオンライン開催がもはやデフォルト化しつつあります。それに伴い、庁舎内のWi-Fi環境などを強化し、オンライン協議への対応力を高めることが必要。